

## 第3回三次市行財政改革推進審議委員会会議要旨

平成25年10月15日

15:00から17:00

みよしまちづくりセンター

- 出席：橋本会長，堀江副会長，湯藤委員，富野井委員，廣中委員，田村委員，新宅委員，小川委員，安藤委員，新藤委員，山根委員，元吉委員
- 事務局：元廣総務部長，新田行革推進特別対策本部課長，奥野主任

### 2 議事

(1) これまでの委員意見の振り返り

- 「三次市がこうあったら良い（総合計画）」と「三次市行政がこうあったら良い（行財政改革）」を分けて考える。
- 「三次市がこうあったら良い」。そのために三次市行政はどうあってほしいのかを考えるのが行財政改革推進審議委員会の使命。
- 「期待する三次市行財政改革の姿」は，いくら正しいことが言えても，実行できなければ仕方がない。動ける組織であってほしい。なおかつ，市民とともに考え，市民と心がつながっている「心根の優しさ」がある。行政には，「(頭は) 適切な判断力」「(心は) 市民と心がつながっている」「(体は) 頼りになるパワフルさと行動力のある機敏な実行力」がいるのではないか。そして，「そのために行政はどうあってほしいか」を考えていけばメッセージになるのではないか。

(2) 現状認識の確認

- 兵庫県篠山市の事例。説明を聞くと「行財政改革が暗くて，総合計画が明るい」という印象を受けたが，本当はそんなことはないと思っている。「明るい行財政改革・夢を拓く行財政改革」でないといけない。経費削減等の厳しい取組も必要であるが。

(3) 三次市の行財政改革へのメッセージについて

- 達成目標（数値目標）について。企業の場合，評価するのは経営指標（売上高利益率5%以上等）。三次市の評価指標（格付け）を分析したものがあれば，三次市の実態がよくわかるのではないか。
- キーワードは重要。「透明」「参加」「選択」をしっかりとついても，やはり数値があれば，よりわかりやすい。
- 行政の場合，財政健全化の指標はたくさんあるが，逆に，何も事業をしなくても健全化指標が良くなる（行政の場合，何もしなくても一定の税収があるため）。
- 行政と民間の違い，行政の特殊性があるので指標は出しにくい，何を指標とするかが大事なポイントなので，良いアイデアがあれば。ブータンのような住民の幸福度のようなものか。
- 公共下水道の整備，過疎地域も含めて市全域整備して普及率100%にすることを

「良い」とするのかどうか難しいが、「でもここまではやろう」という指標があれば良いのだが。

- 目標指標はいると思う。
- 総合計画ができていない中で、行財政改革を議論するべきかどうか。
- 行財政改革は「財政改革」のイメージを持っており、30億円の交付税減額が深刻な問題であると認識している。「ゼロベースで、あるべき行政の姿を考える」という手法が「三次市の財政状況は何とかなる。深刻ではない」という印象を受ける。当然、経費削減だけではなく、夢を語ることも大切であるが、夢ばかり語っていると、「財政状況は大丈夫」という印象をもってしまう。審議委員会として、どこまでの議論を、責任を持って行えば良いのか。私自身の疑問であるが、その答えを市民に出していくべき。甘いことだけではなく、痛みも伴うことがあるのであれば、真剣に議論し、市民に説明していくべき。
- 前回までの議論は「三次市はこうあれば良い」という議論が中心であった。今回からは「そのために行政はどうあるべきか」を議論する。
- 財政の話が一番大事な話なのできちんとやっていかないといけないが、予算を減らしていくことだけで良いのか。一律、職員給料も下げて、最低限の職員数にただけではだめで、意欲・熱意を持った職員がいきいきと働けるようにしていかないといけない。間違ったことをしない職員ばかりにただけでは済まない。
- 大事なところにはきちんと投資して、三次市も、職員も、組織も地域も元気になるようにしたい。そのためにどうすれば良いか。
- 公務員も民間もみんな一緒に地域を盛り上げていくことが必要だと思うが、市職員も行財政改革の視点である「新しい公共」を知らない人がいるのではないか。市民にもみんなにわかってほしい。
- 住民が受け入れられる線、行政がここまでできる線はどこだろうか。
- 財政が厳しく、行政サービスも現状を保てなくなることは住民もわかっているが、「これからも行政にやってもらえる」という感覚から抜け出さないといけない。
- 将来、職員数も半減する。「ここまでを住民にやってください」と言えるかどうか。今回のメッセージでは入れておいて、住民に意識させたい。
- 子どもの意見と大人の意見は異なる。子ども目線の意見を入れてはどうか。
- 子どもたちが「三次に暮らしていて良かった」と思われたいといけない。そういう言葉もぜひ考えたい。
- 行財政改革の取組項目152項目あるが、もう少し簡素化してはどうか。
- 資料はできるだけ簡素化して取り組まないで、絵に描いた餅になる。
- 三次市の決算額（歳出）約396億円のうち、特別会計にどのくらい支出しているのか。相当な金額が一般会計から特別会計に繰り出されている。その辺がわかるように、もう少し見やすく行政から出してほしい。
- 行政にもバランスシートはあるが、民間と行政を一緒の基準では取り扱えない。
- 市民は「市役所に頼めば何とかなる」という安易な考えはやめる。
- 入るお金を増やすには人口を増やすしかない。みんなで考えていく。
- パイを増やすことは必要。平成16年度に策定した行革基本理念は「行財政改革は

萎縮ではなく発展，理屈ではなく実行」。単に小さくなっていくことを考えるだけでは楽しくない。夢がないと，ジリ貧の敗戦処理ばかりしては住んでいても楽しくないし，誰も来ない。

- 人口を増やす必要はわかるが一番難しいこと。
- 住民の声を聴くことが大切だけど，自分自身は何も発していないと思う。
- ケーブルテレビの市議会中継や広報誌等で情報は出ているのでもっと活用したい。
- 人を増やすことは無理がある。
- 仕事がないと人は来ない。企業があれば人が逃げない。
- 若い人ががんばらないと人口は増えない。
- 三次市の財政は有効に使われているか，特別会計がある。決算でごまかされているのではないか。潔く出してほしい。
- 市民は決算にも関心がないのではないか。
- 課ごとの目標，見ても本当によくわからない。小さい分野ではなく，大きな目標を出してはどうか。
- 5年ではなく10年先を見据えた長期計画が必要。
- 普段から地域で，対等に議論できる職員，組織体質をつくっていくべき。それが行政改革としてこの委員会で議論すること。
- 資料のわかりやすい出し方や，（何もしなくても済むのではなく）地域に出ていかないと困る仕組みを考えたい。
- 行政は「市民が言いに来ない」，市民は「行政が聞きに来ない」とお互い待っているのではなく，お互いに出ていく。
- 三次市は何を目指すのか？を明確に表したアドバルーンがあれば良い。
- 岡山県の人口が増えている。「安心安全」のキャッチフレーズを掲げて，県市町の職員が都会に売り出している。職員も商売人にならないと。
- メッセージの切り口はいる。あれもこれも書いてあっても読む気にならない。
- 明るい行財政改革にしたい。例えば市民の力を伸ばす，地域の資源に付加価値をつけて経済効果を生む，元気な高齢者を増やす。市職員の明るい行革コンテストを半期毎に顕彰する等，前向きな行革。
- 30億円の交付税減額。都市計画区域内の下水道整備が進められているが，合併浄化槽であれば10分の1の経費で済む。方向転換しても良いのではないか。
- 2分の1成人式（小学校4年生・10歳のこどもが自分の夢を発表する行事）を甲奴でされている。若者ががんばっている。行政だけでは出来ない取組。最初にしたときには反対もあったと思うが，実行したことがすごい。
- 行政の仕事は言われてやる仕事だけではない。無から有を生み出す仕事もある。わくわくしてやる仕事は言われてやる仕事ではない。神奈川県小田原市のアマゾンの物流拠点等も，情報をキャッチしてすぐに動けるフットワークの良さが行政にもいる。いらぬこと，やらなくても良いことでもやる組織。
- 行政の仕事は「利益を追求しなくても良く，理想を追求できる仕事」
- 財政健全化も大切だが，それだけが大切なことではない。
- 明るい行革は必要と思うが，生む苦しみを味わうと同時にできることをやっていく。

そのためには、お金がないと何もできない。経済的な安定があつてこそ。表に出しすぎてはいけないが、経済的な安定を考えていくべき。経済的なことを除けておいて前には進めない。

- 民間には損益勘定がある。行政も複式簿記にするべき。

以上